

有明ニュース



癌研有明病院

The Cancer Institute Hospital of JFCR



平成 21 年 1 月号 No.5

〒135-8550 東京都江東区有明 3-10-6

TEL 03-3520-0111(代表)

(URL): <http://jfc.or.jp>

新年明けましておめでとうございます。

新年あけましておめでとうございます。

この春で癌研有明病院も移転後5年目を迎えることとなります。

この間当院は、職員一同の努力と、皆様が診療の場として当院を選んで下さったお陰で、当初の予想以上の早さで発展してきました。その結果、癌診療施設として極めて優れた施設と評価されるに至っております。今年もこれまで以上のサービス向上を目指し、より高質の癌医療を提供するよう全員で努力して参る所存です。

しかし一方、高質な癌医療の提供には多額の経費が必要です。職員一同の懸命の努力にも関わらず、既に報道されましたように、当院も経営的にはきわめて苦しい状況におかれているのが実情です。

皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



癌研究会 創立100周年を迎えました。

明治41年、日本で最初のがん専門機関として設立された癌研究会は、昨年で創立100周年を迎えました。癌研究会設立当時、病気としてがんは現在ほど一般的ではなく、結核が最も恐れられていた時代でした。しかしながら、世界ではがんに対し注目が向けられるようになってきており、ドイツから世界的ながん会議開催の必要が提唱されました。日本にも同会議への参加呼びかけがあったことに対し、わが国の代表機関として組織、設立されたのが癌研究会です。設立当時は、がんに対する研究、医療面での活動は際立ったものがあつたとは言えませんが、昭和に入るとともに一般のがんに対する関心が高まり、その重要性が認識されるようになりました。こうした中、昭和9年、癌研究会では、研究所と病院を併設して本格的ながん研究と医療への取り組みを始めました。

その後は、がん本態の研究などの基礎研究、臨床面における多くの治療技術の開発などにおいて、わが国を代表するがん研究機関としてがん研究と医療に取り組み、癌研究会の歴史そのものが初期の日本のがん研究の歴史となっています。近年においては、いち早く遺伝子レベルでの研究に取り組み、がん遺伝子、がん抑制遺伝子の発見や、発がんの仕組みの解明、オーダーメイド医療の実現などに向けた新しいがん研究への取り組みを進めております。

現在、国のがん対策は、がん対策基本法に基づき、強力に進められておりますが、癌研究会は、がんセンターと並び主導的立場でがん研究を進めております。

癌研究会 時代の流れ

癌研究所及び康楽病院
1934年5月開院



癌化学療法センター
1973年3月



癌研究会附属病院
1963年7月



癌化学療法研究診療棟
1977年6月



癌研究所
1965年6月



有明移転 癌研有明病院
2005年3月開院



創立100周年記念にあたっての行事と記念事業

・100周年記念式典

日時 2008年7月8日(火) 17:00~19:30 場所 ホテルニューオータニ東京

・100周年記念事業市民公開講座 「がん医療の最前線」 約1000人の参加者がありました。

日時 2008年7月12日(土) 場所 東京ビックサイト国際会議場

・職員対象記念式典・記念植樹 日時 2008年7月17日(木)

当院の専門看護師・認定看護師紹介

当院の専門看護師・認定看護師(2009年1月26日現在)

専門分野	当院人数	全国人数
がん看護専門看護師	3名	128名
緩和ケア認定看護師	3名	572名
皮膚・排泄ケア認定看護師	2名	815名
乳がん看護認定看護師	1名	78名
がん化学療法看護認定看護師	2名	268名
感染管理認定看護師	1名	765名

今号では、がん化学療法看護認定看護師の活動についてご紹介します。

<がん化学療法看護認定看護師>

がん化学療法の治療現場は、医療情勢の整備や患者さんのQOLを重視した視点などから通院で行われるよう変化してきています。

そこで、私達がん化学療法看護認定看護師は、がん化学療法を受ける患者さん、ご家族にとって確実・安全・安楽に化学療法が継続できるように病棟と外来の継続看護の強化、セルフケア指導の



関野礼子(ATC) 野崎千里(11西)

有効なオリエンテーションの実施など実践モデルを示しつつ、高質な看護を提供できるように日々努力しています。

具体的な活動としては、看護部の化学療法委員会に所属し、委員会の副委員長を担っています。そこで、各部署からの代表委員と共に化学療法マニュアルの改訂、各部署での問題点の抽出と解決、がん化学療法看護教育講座の企画・運営、患者指導の整備などを行い、看護スタッフのやりがいを大切にして、院内全体のがん化学療法看護の質の向上に力を入れています。



ATC での看護カンファレンス風景

今後は、現在の化学療法委員会中心の活動から拡大させ、部署を超えた看護実践・相談・指導を計画しており、化学療法を受ける患者さんと医療スタッフから気軽に声を掛けて頂けるような体制を目指して活動していきたいと考えています。

現在、多くの抗がん剤が開発されています。新規抗がん剤の準備の際には、多職種チームに主体的に関わりながら、多部署における連携をはかり看護師の役割を明確にし、安全な新規抗がん剤の臨床導入に関与しています。新規抗がん剤導入にあたり、看護師対象の勉強会の実施、看護手順の作成、患者さんむけの指導パンフレットの整備などの業務に積極的に取り組んでいます。



病棟での病状・治療説明の面談風景

救急部

スタッフ紹介



二味 覚

救急部部長代行 兼 集中治療部部長代行



メッセージ

救急部では救急科専門医が救急外来・院内救急・災害対応をコーディネートしています。癌研に相応しいがん救急(Oncologic Emergency)を視野に活動しています。

診療内容

- ・救急外来では、救急当番医が窓口となり診療を担当しています。重症の方には、救急科専門医が対応しています。
- ・院内救急では、がん専門医に協力して、各病棟や集中治療室で急変や多臓器障害の救命治療を行っています。
- ・災害対応では、災害拠点病院としての人員・設備・物品の整備や教育を行っています。
- ・2005年3月に有明移転とともに設立された中央診療部門です。2005年12月15

日に救急告示医療機関として救急診療体制を開始し、2006年から救急救命士再教育医療機関として、地域救急医療のメディカルコントロールに参画しています。2007年4月1日から東京都指定第二次救急医療機関としての活動を開始しました。2007年6月1日から東京消防庁救急相談センター協力医療機関として救急相談医を派遣しています。災害拠点病院として、2007年12月に災害医療従事者研修を修了した医療救護班が中心となり災害対応の準備と整備を進めています。2009年1月1日より、日本救急医学会から救急科専門医指定施設に認定されました。

- ・2007年度実績：年間救急外来で2,001件（うち救急車515件）がんの救急患者さんは1,004件（50.2%）が、このうち471件（23.5%）が、がんが原因で入院緊急治療を必要とした患者さんでした。

がん治療を受けられる患者さんが24時間、365日安心して生活を送られるように診療体制を整備しています、またがん治療を専門とする病院ですが、地域のがん以外の癌以外の救急患者さんも可能な限りお受けできるよう努力しています。

■医療機関向け お知らせ ■

看護師募集

7:1 看護にするために

日本で最初にできたがんの専門医療機関として「患者さんのための医療」に力を尽くしていますが、今後、さらにより良い医療の実現とさらに発展させるために、看護師を大きく増員し、これまで以上に手厚い看護（7:1看護）で医療の質を高めたいと考えております。（7:1看護とは患者さん7人に対し看護師が1人配置される看護体制です。現在は10:1看護で行っております。）

あなたのやさしさを『がん看護』に・・・まずはお気軽にお電話下さい。

ご応募お待ちしております。

お問合せ先 ☎03-3570-0398(人事課) ☎03-3570-0392(看護部)

先生方へご案内

医療連携室では、医療機関の先生方からご紹介患者様の診察予約をお取りしております。また、経過報告書の管理、診察に関するご案内等を行っております。お問い合わせの窓口としてご信頼いただけますように、迅速・確実な対応を心がけて行きます。ご紹介方法について 電話・FAX でお申込みいただけます。（お急ぎでない場合は患者様自身にお電話いただき予約することもできます。）

連携医療施設の登録のご案内

当院との医療連携が密接な医療機関に、「連携施設」となっております。連携施設にご登録いただけます先生方は、医療連携室へ電話もしくはメールにてお問い合わせくださいますようお願いいたします。当院は、地域医療機関と協力して地域医療の推進に努めます。

連携施設 224 施設（2009年1月20日現在）

財団法人 癌研究会有明病院 発行：医療連携室

TEL 03-3570-0506 FAX 03-3570-0254

(E-mail): renkei@jfor.or.jp